

病院長からのメッセージ

「医薬分業について－院外処方箋についてのご案内とお願い」

病院長 泉 良平

皆様は、「医薬分業」という言葉を、耳にされたことがあると思います。「医」は医療機関の意味で、病院、診療所となります。「薬」は、薬局を意味します。また、「医」は医師であり、「薬」は薬剤師ということになります。この「医」と「薬」の役割をはっきりさせ、患者様にとって、よりよい医療を提供できるようにするのが「医薬分業」の目的です。

お薬は、病を癒すために用いられるものであり、病気の内容によって決められます。病院や診療所の中で用いられるお薬は、注射薬、内服薬を含め、全て処方箋が発行されます。その処方箋に基づいて、薬剤師が調剤し、薬は病棟や外来治療室に届けられます。外来通院されている患者様では、処方箋に基づいて薬剤師が調剤したお薬を、病院内でお渡するのが「院内処方」です。また、患者様が、病院で発行した処方箋を病院外の調剤薬局に出されて、病院外の薬局で調剤されたお薬をわたされるのが、「院外処方」となります。

病院の中に、薬剤師がいるのに、何故わざわざ病院外の薬局まで行かねばならないのか、面倒なことをしなければならぬのか、皆様の中には疑問に思われる方がいらっしゃると思います。これには、大きな理由があります。

その理由とは、「薬歴管理」です。皆様が服薬されている薬の内容を、専門職である薬剤師が管理し、正しい医療を提供できるようにするための方法です。従来からも、お薬の管理が必要であると言われてきましたが、医薬分業はなかなかすすみませんでした。そのうちに、大き

な薬害事件が起きてしまいました。「ソリブジン事件」といわれるものです。皮膚病の治療薬である「ソリブジン」は大変有効なお薬で、多くの皮膚科の医師が処方しました。ソリブジンを処方された患者様の中に、がんの治療のために「抗癌剤」を服用されている患者様がいらっしゃいました。一つの医療機関からお薬が処方されていれば、お薬どうしの「相互作用」について注意をすることが出来たのですが、この事件では異なった複数の医療機関から別々にお薬が処方されていたために、相互作用に気づくのが遅れてしまい、強い副作用が出て多くの方が死亡されました。一つの薬局でお薬の管理がなされていれば、このような悲惨な薬害事件は避けることが出来たのではないかとこの反省から、当時の厚生省は「医薬分業」を強力に推進することとしました。気がつかないうちに、病を治すために服用していたお薬によって健康を害することは大変悲しいことです。

院外処方を発行いたします大きな理由である「薬歴管理」を有効にうけられるために、皆様には是非、「かかりつけ薬局」をお持ちいただくことをお勧めします。複数の病院や診療所から処方される内容を、普段からかかりつけの薬局、薬剤師の方に管理していただければ、安心してお薬を服用することが出来ます。ご自分の健康を回復するためにも、また健康を維持されるためにも「院外処方」にご理解いただきたいと思ひます。

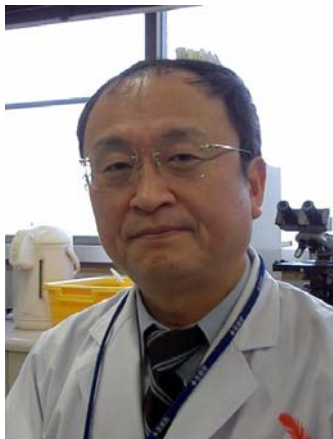


目次:

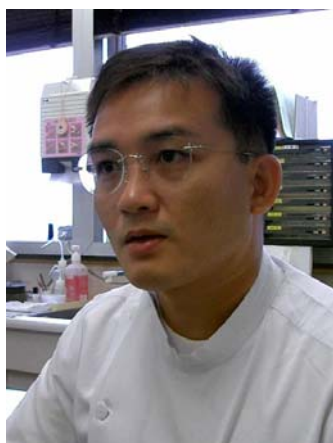
病院長からのメッセージ 「医薬分業について－院外処方箋についてのご案内とお願い」 病院長 泉 良平	1
■診療科紹介 耳鼻咽喉科	2
■パラチルス検査室内感染についてのお詫びとご説明 病院長 泉 良平	3
■新任医師紹介 (略歴と自己紹介)	4
■特別寄稿 「臨床研修医レターⅠ:自己紹介」	5
■特別寄稿 「新事務局長に聞く」 事務局長 前崎 豊作	6
■連載企画 ○シリーズⅠ:検査値の見方 C型肝炎ウイルスのスクリーニング検査(HCV抗体検査)で陽性といわれたら	6
■連載企画 ○シリーズⅡ「病棟だより」 西病棟7階	7
■連載企画 ○シリーズⅢ「ボランティア・エッセイ」 No. 3 「昨日～今日～明日」	7
■今月のふれあいギャラリー	8
■今月のイベントと院内の動き	8
■編集コラム	8



■診療科紹介 耳鼻咽喉科



加勢 満 (かせ みつる)
耳鼻咽喉科部長
昭和50年千葉大学医学部卒
昭和54年金沢大学大学院修了
●専門領域 扁桃が専門領域です。
●資格 医学博士 日本耳鼻咽喉科学会認定専門医
●モットー 親切
●患者さんへの一言 親切にねえいモットーとして診察していますが、どうしても出来ない手術治療もあります。その時は必要に応じ、さらに高次の病院(大学病院等)へ紹介します。



前川謙一 (まえかわ けんいち)
耳鼻咽喉科医長
平成4年福井医科大学医学部卒
平成14年金沢大学大学院修了
●専門領域 鼻内内視鏡手術
●資格 医学博士 日本耳鼻咽喉科学会認定専門医
●モットー 常に新しい知識を吸収し、患者さんに対して医療行為を提供すること。
●患者さんへの一言 慢性副鼻腔炎でお悩みの方、鼻内内視鏡手術をご希望の方は是非とも受診してください。何かお役に立てることがあるかもしれません。

耳鼻咽喉科とは、みみ、はな、のどの病気をあつかう科です。それぞれはつながってはいますが、やはりこまかく分かれているため、広い領域です。当科では、扁桃疾患・手術をよくあつかい、急性扁桃炎(細菌性、ウイルス性)、摂食困難の入院も多いです。顔面神経麻痺の、一連の臨床研究もよく発表しています。また、頭頸部腫瘍の手術、放射線治療、化学療法や終末期治療もしています。

★いびき・睡眠時無呼吸について

いよいよ当院でも、睡眠についての一連の検査器械が稼働し始めました。いびき・睡眠時無呼吸について紹介します。

睡眠障害とは：睡眠時間は個人差があり、「日中しっかり覚醒してすごせるか」が目安となります。日本人の平均睡眠時間は6.6時間といわれ、2歳頃までは1日の半分以上、10歳台になると8～10時間、成人～50歳台で6.5～7.5時間、70歳をこすと6時間弱となるといわれています。秋から冬長くなり、春から夏にかけて睡眠時間は短くなります。早寝早起きではなく、早起きが早寝に通じるといわれ、起床後太陽の光を浴び、体内時計のリズムがリセットされると、そこから約15～16時間後に眠気が出現するといわれています。日中の眠気がひどかったり、平日と比べ週末に3時間以上長く眠らないといけないようでは、睡眠不足といわれています。日中の過剰な眠気は成人の14.9%に認められ、若年者ほど頻度が高く、睡眠不足(睡眠の量的低下)や睡眠障害(睡眠の質的低下)が原因のほとんどといわれています。睡眠中の激しいいびき、呼吸停止や足のびくつき、むずむず感は要注意です。

まず、睡眠時無呼吸の自己採点から始めましょう(KOIKE MEDICALの質問表、次ページ上段)。

まず、問1から問5までの合計点を出してください①。次に、問4、問5の合計点をそれぞれ別々に計算します②。①が16点以上、かつ②が8点以上あった方は、睡眠時無呼吸の疑いがあります。このほかに、エップワースの日常生活における眠気の尺度をき



閉塞性睡眠時無呼吸ののどの写真。上は手術前で、腫大した扁桃と口蓋垂のためののが狭くなっています。下は手術後で、腫大部分を切除した写真です。のどが広くなり、症状は改善しました。

く、問診表も一般的です。

耳鼻咽喉科では、いびきや閉塞性睡眠時無呼吸の診察(鼻づまりや、のどが狭いかどうか)し、毎日午前中外来で、終夜睡眠ポリグラフ検査の予約できます。費用は一泊の検査だと、5、6万で、その3割負担となります。解析に約一週間を要します。日中の眠気や過眠や抑うつのような症状がある場合は、内科(午前中)や神経科でもお気軽にご相談下さい。詳しくはホームページをご覧ください。

■週間担当医

外来診療：月曜から金曜日
午前中：月水金は前川、火木は加勢が10～11時病棟回診で不在です。
午後は検査や手術ですが、木曜午後は学校帰りの学生(滲出性中耳炎など)外来があります(予約必要)。

KOIKE MEDICALの質問表

問1：昼間じっとしているときに眠くなることがある。

- 1点：ほとんどあてはまらない
- 2点：少しあてはまる
- 3点：半分ぐらいあてはまる
- 4点：だいたいあてはまる
- 5点：非常によくあてはまる

問2：朝、起きたとき熟睡感がなく、すっきりしない。

- 1点：ほとんどあてはまらない
- 2点：少しあてはまる
- 3点：半分ぐらいあてはまる
- 4点：だいたいあてはまる
- 5点：非常によくあてはまる

問3：睡眠時間を十分にとったときでも朝、眠くて起きづらい。

- 1点：ほとんどあてはまらない
- 2点：少しあてはまる
- 3点：半分ぐらいあてはまる
- 4点：だいたいあてはまる
- 5点：非常によくあてはまる

問4：いびきをかくと言われている。

- 1点：ほとんどあてはまらない（いびきはまずかかない）
- 2点：少しあてはまる（疲れたとき、アルコールをとったときはいびきをかく）
- 3点：半分ぐらいあてはまる
- 4点：だいたいあてはまる（よくいびきをかくと言われる）
- 5点：非常によくあてはまる（ほとんど毎日いびきをかくようだ）

問5：いびきをかく場合、どういった特徴がありますか。

- （問4で「1点」だった方は問5も1点で計算してください）
- 1点：いびきはまずかかない
 - 2点：規則正しいいびきであり、あまり音量は大きくないと言われている
 - 3点：規則正しいいびきであるが、かなりの音量と言われている
 - 4点：規則正しいいびきであるが、非常にやかましいといわれている（隣の部屋にいても聞こえるほど）
 - 5点：いびきが非常に大きく、息がつまったようにとぎれると言われている（いびきが聞こえなくなって静かになったと思うと、また息を吹き返したかのように大きいいびきが聞こえる）

■パラチフス検査室内感染についてのお詫びとご説明 病院長 泉 良平

5月12日に、当院の臨床検査科技師に発生しましたパラチフスAにつきまして、報道各社の方々に病院にお集まりいただき、発表いたしました。入院中・通院中の患者の皆様のみならず、市民の皆様にも、多くのご心配とご迷惑をおかけすることになってしまい、大変申し訳なく思います。病院を代表致しまして、心よりお詫び申し上げます。この感染例につきまして、事実経過をご説明し、病院が対応しました内容につきまして、ご報告いたします。

本年4月20日に、ネパール旅行をされました県内の患者様1名が、パラチフスAと診断され、当院の感染症病床に入院されました。法定伝染病であり、富山市保健所から公表されましたので、ご存じの方もいらっしゃるかと思います。この患者様は入院後には高熱を認め、また血液培養検査（血液の細菌培養検査）にて、パラチフス菌が検出されたために、当院の臨床検査科技師が検査を行いました。抗生物質の投与にて、幸いにして病状は改善しましたが、血液培養検査は続けねばなりません。この血液培養検査では、様々な工程での作業が必要となります。大変微細な作業であり、またこの作業がうまくいかないと検査結果が正しくできません。その微細な作業の過程の中で、検査科技師は「正しい検査を行わねばならぬ、正しい診断を行わねばならぬ」という思いの中で、手袋を外してしまいました。これらの作業の中で、検査を行った技師本人が感染してしまったのではないかと推測しています。

感染が判明しましてから、すぐに感染しました技師は感染症病棟に収容しました。また、発病するまでの技師の追跡調査を、富山市保健所と共に行いました。その結果、入院あるいは外来通院中の患者様とは、殆

ど接触がないことが判明しました。職員とは多少の接触がありましたので、すぐさま、職員全員の健康調査を行いました。幸いにして、他には感染を疑わせる職員は出ませんでした。現在、感染しました技師は治癒し、無事退院しております。病院内でこれ以上の感染が出なかったことは不幸中の幸いと思っております。

臨床検査科の検査手順マニュアルでは、手袋を装着することになっていました。正確な診断をという思いの中で行ったこととはいえ、検査室内で感染してしまったことは、あってはならないことです。臨床検査科には、検査手順などのマニュアルを再検討すること、また、マニュアルを遵守することを指示いたしました。以後、決して、このようなことがおきないように、院内で感染対策に万全の体制をとり、職員一丸となって、皆様の健康をお守りするために努力して参ります。これからも、皆様には正しい病院の情報をお伝えし、皆様に安心して富山市民病院をご利用いただけますよう努力して参りますので、ご理解の程、何卒宜しく願いいたします。



■新任医師紹介 (略歴と自己紹介)



とりた むねよし
鳥田 宗義
内科医師 平成9年卒

☆専門領域：内分泌・糖尿病
☆資格・学会：日本内科学会認定医，日本内科学会，日本糖尿病学会，日本内分泌学会
☆モットー・患者さんへの一言
糖尿病は，長くつき合っていないといけない病気ですので，患者さんとの関係を大切にしていきたいと思っています。



おかむら としゆき
岡村 利之
内科医師 平成10年卒

☆専門領域：消化器



いしまる かずひろ
石丸 和宏
内科医師 平成11年卒

☆専門領域：腎・高血圧・血液浄化療法
☆資格・学会：日本内科学会，日本腎臓病学会，日本高血圧学会，日本透析学会，日本循環器学会
☆モットー・患者さんへの一言
精一杯頑張らせていただきます。



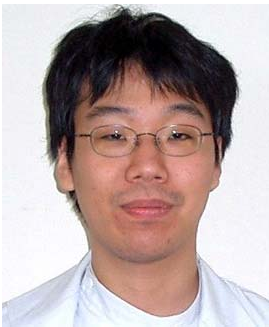
きたの かつのり
北野 克宣
内科医師 平成13年卒

☆専門領域：循環器科
☆モットー・患者さんへの一言
いつも笑顔で。



みはら ひろし
三原 弘
内科医師 平成14年卒

☆専門領域：消化器内科，一般内科
☆資格・学会：日本内科学会，日本消化器病学会，日本消化器内視鏡学会
☆モットー・患者さんへの一言
人生のほんの一部ですが，患者さんとその時間を共有できることに喜びを感じます。少しでも，その時間が素晴らしいものになるよう毎日努力いたします。



いけだ とくへい
池田 篤平
内科医師 平成14年卒

☆専門領域：神経内科
☆資格・学会：内科学会，神経学会
☆モットー・患者さんへの一言
わからないことがありましたら，いつでもおっしゃって下さい。



はせがわ ゆうすけ
長谷川 雄介
精神科医師 平成8年卒

☆専門領域：てんかん，睡眠障害
☆資格・学会：精神保健指定医
☆モットー・患者さんへの一言
患者様に共感する医療を目指しております。



みうら まゆみ
三浦 真由美
精神科医師 平成15年卒

☆専門領域：精神科
☆モットー・患者さんへの一言
まだまだ経験が浅く勉強中ですが，患者さんの近くにおいて，共に成長していく関係を大事にして頑張っていきます！！



にしうら かしく
西浦 可祝
小児科医師 平成15年卒

☆専門領域：小児科
☆モットー・患者さんへの一言
一生懸命がんばります。



いかわ ゆうか
伊川 友香
皮膚科医師 平成14年卒

☆専門領域：皮膚科一般
☆資格・学会：日本皮膚科学会
☆モットー・患者さんへの一言
お互いに気持ちのよい診療を心がけます。



よしずみ てつや
芳炭 哲也
外科医師 平成8年卒

☆専門領域：消化器外科
☆資格・学会：外科学会認定医
☆モットー・患者さんへの一言
Warm Heart, Cool Head, Skilled Handの3Hを忘れず，がんばりたい



かわはら ようへい
川原 洋平
外科医師 平成15年卒

☆専門領域：外科
☆モットー・患者さんへの一言
患者さんが手術を受けて，お元氣になって退院されるのを見るのが喜びです。



おかもと よしゆき
岡本 義之
整形外科医師 平成15年卒

☆専門領域：整形外科
☆モットー・患者さんへの一言
誠実な対応を心がけていきたいと思ひます。



さとう のりこ
佐藤 典子
形成外科医師 平成12年卒

☆専門領域：形成外科一般
☆資格・学会：日本形成外科学会
☆モットー・患者さんへの一言
形成外科らしく丁寧な診療を心がけます。



はやし ゆたか
林 裕
救急センター部長
脳神経外科医長 昭和62年卒

☆専門領域：脳神経外科



つるおか さとし
鶴岡 智
眼科医長 平成6年卒

☆専門領域：眼科一般
☆資格・学会：日本眼科学会
☆モットー・患者さんへの一言
患者さんに優しく、わかりやすい説明を心がけています。



かわきた まきこ
河北 麻紀子
麻酔科医師 平成13年卒

☆専門領域：麻酔科学一般
☆資格・学会：麻酔科標榜医、日本麻酔科学会、日本臨床麻酔学会
☆モットー・患者さんへの一言
常にあたたかい態度で患者さんと接する様に心がけています。



ほり たけし
堀 岳史
麻酔科医師 平成14年卒

☆モットー・患者さんへの一言
患者さんの手術時、精神的、肉体的疼痛をとり除くだけでなく、外来診療においても、慢性的な疼痛に苦しんでいる患者さんを少しでも楽にしてあげられるようがんばりたいと思います。



病院周辺の植え込みのツツジ

■特別寄稿

「臨床研修医レターⅠ：自己紹介」 井石龍比古、岡澤成祐、馬瀬新太郎

皆さんこんにちは。今年4月から市民病院で卒後臨床研修をさせて頂いている研修医の3人です。この度、3回の連載を依頼されましたので、まずは3人の自己紹介をさせて頂きます。それでは五十音順にまず一人目からいってみましょう♪♪

はじめまして。4月からこの富山市民病院に金沢大学の臨床研修プログラムで来ました、井石龍比古です。こちらでは9月いっぱいまでお世話になります。出身地は愛媛県です。富山からは遠いので良くご存じない方が多いかとは思いますが、四国4県の内のひとつです。そう言われると、ああ、暖かくて天気が良くてみかんがたくさん採れる所だなとお思いの方、それだけではありませんよ。今年の春の高校野球では見事、愛媛県の済美高校が優勝いたしました！けど自慢できることは、まあそれぐらいです。皆様とはもしかしたら外来で、多くは病棟でお会いすることになるかと思しますので、よろしくお願いたします。

続いて二人目、

はじめまして。富山医科薬科大学の研修プログラムで富山市民病院で1年間研修させて頂いている臨床研修医の岡澤成祐です。出身も出身大学も生粋の長野の山の中だったので、海が見たくて富山にきました。もとい、他県の文化に触れることで何か成長できるかなと思っています。富山県にきて今一番びっくりしたのはお寿司がおいしいのは当然として、雨の日が多いことです。冬になったらまた驚くことがあるかもしれませんが、雨にもまけず雪にもまけず、今年1年間富山市民病院で研修を頑張りたい

と思っていますので、どうぞよろしくお願いたします。

最後に三人目です。

はじめまして。金沢大学研修プログラムから来ました、SR（スーパーローテーター）の馬瀬新太郎です。生まれも育ちも、いきいき富山キトキト富山っ子です。普通スーパーと名の付くものスーパーマンや、スーパーカー、スーパーコンピューターと凄そうなイメージですが、僕らSRは、右も左も判っていない、凄くない研修医です。ですが、いつかスーパーと名の付くドクターとなって、多くの患者さんのご健康のお役に立てる日を目指して、一生懸命頑張りますので、病院内はもちろん、町で見かけましても、どうか温かい目でご指導、ご協力の程、宜しくお願いたします。

以上個性的(?)な自己紹介でした。次回は私たちの「こんな医者になりたい」をお送りしますのでお楽しみに。



左より岡沢、馬瀬、井石先生



■特別寄稿 「新事務局長に聞く」

事務局長 前崎 豊作

市民病院事務局長に着任早々、平成16年度医療改正に伴う新たな施設基準への対応や看護学校の建設準備、その他医療設備の更新など新たな課題が山積みしており、その対策に追われている毎日です。

価値の在り方、簡素化・合理化やIT化（情報通信技術を活用した電子化）対応を含めた診療報酬体系の改革について引き続き検討を行うとされており、さらに、今後もこの考え方に沿った改定が行われるものと考えられます。

具体的には、急性期入院医療の体制の強化、慢性期入院医療の問題、外来医療の在り方を含めた、病院・地域医療機関との機能分担や連携強化などがあります。

今年度の診療報酬の改定は、改定率では、マイナス1%となったものの、大別すると① 医療技術の適正な評価 ② 医療機関のコスト等の適切な反映 ③ 患者さまの視点の重視 ④ 診療報酬体系のあり方や医療の安全・質の確保・DPC（包括医療）、⑤ 疾病の特性に応じた適正な評価など、「患者さま中心、質が高く、安心できる効率的な医療を確立する」という基本的な考え方に沿って行われました。

このような様々な課題に対しましても、市民病院が地域の中核病院として、地域の医療機関との連携と機能の分担を図りながら、患者さまから選ばれる医療機関になるには、「どうしていかなければならないのか」「どう変わらなければならぬのか」を職員全体で常に考えながら仕事を進めていきたいと考えておりますので、引き続き、市民病院へのご支援、ご指導をお願いいたします。

また、医療の質や安全の確保等に対するコストの評

■連載企画

○シリーズⅠ：検査値の見方

C型肝炎ウイルスのスクリーニング検査（HCV抗体検査）で陽性といわれたら

C型肝炎ウイルス（HCV）は主に血液を介して感染するウイルスで、以前はその正体が分からず、非A非B肝炎として輸血後肝炎の主体を占めていました。現在はウイルスが同定され、HCV抗体検査でチェックできるようになり、輸血で感染することはほぼなくなりました。ごく例外的に感染初期の場合、検査をすり抜けることがあります。記録の保管が義務づけられ、追跡調査ができるようになってきました。HCV感染後、おおよそ1/3は自然治癒しますが、残りはほっておくと慢性肝炎から肝硬変になりますので、インターフェロンなどの治療が行われます。

さて、病院や献血でHCV抗体陽性ですと言われたら、そればすぐにHCV感染を意味しているわけではありません。①現在HCV感染中、②HCV既感染（つまり今は感染がなく治癒している）、③偽陽性（検査手法の問題で、HCVにまったく感染していない）の3つの場合があります。ですから、HCV抗体陽性と言われたら、現在HCVに感染しているかどうか区別する必要があります。①の場合は治療が必要ですし、②③はその必要がないからです。HCV抗体が低力価（抗体が少ない場合）は②③のことが多く、通常経過観察しますが、高力価（抗体が多い場合）のときは高

い確率で現在HCVに感染しているといえます。中等度の力価の場合はHCVのウイルス自体を測定する必要があります。PCR法などでHCV抗原検出やウイルス量の測定を行います。HCV抗原が検出されたときは現在感染中であるといえますが、陰性の場合はその可能性は非常に低いといえます。一方、HCV抗体陰性と言われても、偽陰性（実際は感染がある）こともありますので、肝臓病の専門医と十分ご相談下さい。（臨床検査専門医、齋藤）



■連載企画 ○シリーズⅡ「病棟だより」 西病棟7階

「おはようございます。本日担当の〇〇です、宜しくお願いします。」と、私達看護師が患者様と顔を合わせる一日のスタートは、朝、患者様サイドに置く自分達の顔写真を持ち、それぞれの担当患者様に笑顔で挨拶し、本日の予定の打ち合わせを行うことから始まります。

当病棟には消化器に病気を持つ患者様が多く入院されています。消化器とは人間の内臓の大部分をしめています。そのため一口に消化器疾患と言え、症状や治療方法は多様であります。まずは絶食を強いられる苦痛な治療から始まります。しかし、ご安心ください。信頼でき腕に自慢を持つ医師と、心優しい師長はじめとする看護師一同が、チームワーク宜しく、患者様が回復して頂けるよう頑張っています。そして、このように当病棟の49床は常に満床近く、稼働率もとても良い状態なのであります。

さて、日中勤務の終わりに朝配った私達の顔写真を回収するのですが、見当たらない時があります。

ファンが持ち去ったのか、その実は、ごみ箱に落ちていて、ガックリすることもあります。このような感じで日中の患者様との関わりは終えますが、当病棟は多忙の中にも笑顔を絶やさず、チーム一丸となった医療提供がより充実して行えるよう励んでいます。



西病棟7階のスタッフ

■連載企画 ○シリーズⅢ「ボランティア・エッセイ」

No. 3 「昨日～今日～明日」

病院ボランティア 石森 貞夫



玄関ホール受付にて

病院のロビーでは今日も賑やかな会話がはずみます。「あんた たっしゃけ」「まめなけえ」「がいわるなけ」と3人のばあちゃんが、久しぶりの再会に笑顔で手を取り合っています。友達を見舞いに来ての相談です。富山弁まるだしの農家の姑連中ですね。老人には病院を社交場として、あっちこちのソファでオシャベリに夢中で、今日を笑顔で団欒を楽しんでいます。「がいわるい」とわ、病に侵されていないかの安否から、元気な呼びかけです。

良好な人間関係は ①アイコンタクト(視覚) ②スピーチ(会話) ③タッチング(接触)で、老婦人たちは、まさにお互いに目を交わし、触れ合って会話を楽しみながら、病院でのひとときを過ごした後、西町大和方面へ買い物に出かけるのでしょうか。

先日のテレビで特別老人ホームで、人生最後を迎える課題として、「看取り」はどうあるべきか? 静かに余生を送る老人は、医療行為はできない施設で、痛みをともなわない死は人類共通の問題である、と論じる解説者の姿勢が印象的でした。これもターミナルケアでできることは、利用者にとってできるだ

け出来ることを増やすことのみだと思います。

病院のボランティアとしてできることは、利用者とのコミュニケーションは言うまでもなく、看護科・コーディネータなどと連絡を密にし、気持ちよく出入りできるような病院づくりの援助をしなければなりません。自分ができると思っても、病院から頼まれないことは、かつてにやらない。専門的なことは学習してから、研鑽の場を経験してから手助けしましょう。

5月は看護の日です。「いのちとのふれあい」を俳句に託しました。《燼えさしの 人生支える 看護の手》「もえさし」とは老いの荷であり、老いも死も避けることのできない私くし達の荷である。この荷は予想以上に厄介な重い荷のようである。あまり嬉しそうに背負っている人をみません。今日、福祉、福祉といわれるようになって、老人ホームができたり、寝たきりの世話をする介護制度ができ、年金が充実したり、医療費の無料化が進められたりしてきました。結構なことですが、私達にはそういうことになっても、どうにもならない老いの荷、もえさしのさみしさが感じられます。これは東井義雄先生(兵庫県八鹿中学校長・東光寺住職)のお言葉です。昨日～今日～明日と、どうにもならない老いの荷を背負いながら、人生の歳を重ねて、ありがたいと悟りたいものですが、凡夫の我々は迷いの道にうろろろするでしょう。ただただ今日を元気に、明日に託してがんばりましょう。

■今月のふれあいギャラリー (玄関ホール2階)

6月1日より写真「バラと緑と言葉のハーモニー」(村沢京子さん作)を展示しています。待ち時間などに気軽にお立ち寄り下さい。4月22日より展示していました写真「万葉線」(関井邦子さん作)は都合により5月27日で終了しました。ありがとうございました。

■今月のイベントと院内の動き

○4月1日から文書受付窓口をオープンしました。

文書の受付と、お渡し日を明確にすることにより、患者様の利便性と、各診療科における文書事務の煩雑を取り除き、待ち時間の短縮を目的とします。生命保険会社や勤務先などへ提出される、入院証明書や傷病手当金請求書、または、その他の手続きに必要な文書を申請される方は、正面の文書受付窓口にお申し出ください。

☆申請されるときのお願ひ☆

- ①ご本人、または、ご家族以外の方が申請される場合は、ご本人の委任状が必要です。
- ②申請後、場合により、ご連絡の必要がありますので、日中連絡できる電話番号をお知らせください。
- ③書類の種類によっては、完成が遅れる場合がありますので、事前にお電話で確認のうえお越しください。

【入院中の患者さまの場合】

- ④入院中の患者さまは、退院の日が決定してから文書窓口へ申請してください。
 - ※中には入院中に記入できる文書もありますので、病棟看護師にご相談ください。
 - ⑤入院中の転科などにより、科別に複数の証明書が必要な場合があります。
- その他詳細につきましては、文書受付窓口にお尋ねください。

○5月13日(木)「ふれあい看護体験」が看護週間の行事として行われました。

市民公募の8名の方が身体計測や看護ケアなどを体験され、また、施設見学や病院食の試食なども行なわれました。体験者の方々は大変興味深く熱心に体験され、「病院や看護の仕事を知ることができました」と、ご感想をいただきました。



ふれあい看護体験 上:身体計測, 下:調理室

☆お知らせ☆

本誌は富山市民病院メールマガジンでお届けした内容をリメイクして編集しております。電子メールアドレスをお持ちの方は、この機会にぜひ電子メールアドレスをご登録下さい。お申し込みは富山市民病院ホームページ(<http://www.tch.toyama.toyama.jp/>) 下段左のウェブサポーター欄をご覧ください。

総編集長: 病院長 泉 良平

編集部: 齋藤勝彦・家城岩松・石森貞夫
山本和子・森川知俊

発行: 富山市立富山市民病院広報委員会
〒939-8511
富山市今泉北部町2-1

電話 076 (422) 1112

Fax 076 (422) 1371

<http://www.tch.toyama.toyama.jp/>



富山市立 富山市民病院



■編集コラム

みなさん「確認君」なるものをご存じですか? 患者さんが携帯する簡易な小型バーコード・リーダーです。そうです、スーパーのレジで商品にあてるとピッと金額が呼び込まれるあのバーコード・リーダーです。携帯電話程度の大きさにして患者さんが持ち運べるように工夫したものなのです。患者中心の医療と言葉では簡単に使っていますが、果たしてどうでしょう。医療事故が日々どこかで報道されているこのごろですが、主役である患者さん抜きに医療安全がすすめられてはいないでしょうか。「あの看護師さん、薬を確認したのかしら?」「これ本当に自分の注射かしら」とか、気になっても確かめようがなく、不安ばかりがつのるのは、なにも心配性の私だけではないと思います。「確認君」は点滴や注射、薬などに向けて、それが自分のものであることをまさに確認してくれる道具で、安心を与えてくれるわけです。まだ実用や運用に向けての課題も残っており、当院ではすぐに導入できるわけではありませんが、自分の安全は自分を守るという意識が高まりつつあるのではないのでしょうか。

現在、当院では患者さんに名前を名乗ってもらったり、リストバンドをしていただいております。以前であれば「面倒だ」というご意見も多かったと思いますが、最近では「安心できる」という方が多いのも事実です。このように患者さん参加型の医療であってはじめて患者中心の医療といえるのではないのでしょうか。この富山市民病院マガジンを通して、ぜひ皆さまには富山市民病院の改善活動に参加していただきたいと思っております。ご意見をお待ちしております。